



監の古い形はです。臣はで、目を大きく見開いた形です。“見張る”のが本義で、普通は“見張る人”つまり“家来”の意味に使われます。は人の変形です。

は、皿に水がいっぱい入っていることを示したものです。

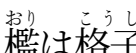
監は、皿に満たした水に人が顔をうつして、それを見つめることを表わした字です。

つまり、“水かがみ”が監の本義です。上から見おろして見なければならぬので、“見おろす”“部下を見張る”という意味にも使います。

監督。監視。監査。

鑑は、金属性の“かがみ”が本義です。鏡と同じものです。ガラス製の鏡ができるまでは、銅や鉄板を磨いて作りましたので、鑑とか鏡とかという字になりました。人は鏡を見て、初めて自分の姿が分かるので、“反省する”“手本”の意味にも使われます。亀鑑（かがみ＝手本）。年鑑。

檻は、囚人を監視するために入れておく木製の“おり”のことです。

監視の意味の監と、材料の木とでこの字を作りました。は格子で囲ってありますから、“格子”や“手すり”を檻と言うこともありま

す。欄檻（橋の手すり）。

艦は、海上の戦闘のために、防禦の檻を備えつけた大きな舟です。

檻と舟との会意形声字です。軍艦。戦艦。

濫は、水かがみ（監）の水が、“外にあふれ出る”という意味の字です。

汜濫は、川の水が外にあふれ出ることです。転じて、“度が過ぎる”という意味に使われます。濫用。濫造。濫読（みだりに読むということで、乱読では意味が通じません）。音は、監 (kan) が変化してラン (lan) です。k 音は l 音に变じやすいのです。

覧は、見おろす意味の監の省略した形と見との会意形声字で、“上から下をつくづくと見る”という意味の字です。尊敬すべき人について使います。御覧。遊覧。

藍は、監という名の草のことです。日本名では“あい”と言います。この草をとかして作った染料の色が“あい色”です。藍汁を煮つめると“青色”の染料ができあがります。それで、「青は藍より出でて藍よりも青し」（出藍のほまれ）という諺が生まれました。弟子の方が先生よりりっぱになったことを表わした諺です。